

講義名称	美術	担当教員名	喜多村 徹雄
科目群	人文学 (HUM)		
科目区分等	芸術 CA7 DI5	単 位	2
対象学年次	1年・秋学期	ナンバリング	HUM151

授業のキーワード	美術をとおした学び、表現、社会
授業の概要	生涯にわたって生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関われるよう、美術の意味や意義を知るとともに、今日の社会における美術の機能について考える力の育成を目的とします。小実技を含みます。
期待される学習成果 (目標)	1. ことばや色、形による表現や鑑賞をとおして、表現主題の背景 (個別、社会的) について想像する力が身につきます。 2. 美術表現をみることで様々な今日の問題について考えるきっかけが身につきます。

授業展開		
回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方や評価について説明します。
2	子どもたちの表現	子どもたちの造形表現の特徴と意味について考えます。
3	美術の始まり	有史以前に始まる美術的表現について考えます。
4	古代の美術	古代の美術様式について説明します。
5	中世・近世の美術	中世と近世の美術様式について説明します。
6	モノの見方の違いと表現 (欧州と日本)	欧州と日本のモノの見方の違いによる表現の違いについて考えます。
7	技術革新と技法	中世や近世の技術革新と技法の変化がもたらした解説について説明します。
8	近代美術の誕生	社会制度の変化がもたらした表現について解説します。
9	メディア・アート	現代の技術革新がもたらした表現について説明します。
10	現代美術と社会	現代社会の諸問題と美術の主題について考えます。
11	アートプロジェクトと地域	アートプロジェクトと呼ばれる動向と地域の関係について考えます。
12	社会のなかの美術	社会における美術の機能について考えます。
13	教育における美術	教育における美術の機能について考えます。
14	メディアやツールとしての / である、美術	私たちが社会のなかでよりよく生きるためのツールとしての美術について考えます。
15	まとめとふりかえり	授業を振り返り、要点を確認します。

定 期 試 験	中間レポートと最終レポート、通期でポートフォリオの作成を課します。
授 業 時 間 外 学 習	美術史の流れや様式について参考資料や教科書等をとおして予習し、授業で学習した内容を復習としてポートフォリオにまとめる。概ね各45分。
評 価 方 法	レポート50%、ポートフォリオ40%、授業への貢献度10% 中間および最終レポート、ポートフォリオには評点 (A～D) と簡単なコメントを付して返却します。
使用する教科書 (必ず購入してください)	高階秀爾『増補新装 カラー版 西洋美術史』美術出版社、2002年
参 考 文 献	高階秀爾『カラー版 - 近代絵画史(上) 増補版』中央公論新社、2017年 高階秀爾『カラー版 - 近代絵画史(下) 増補版』中央公論新社、2017年